

第23回兵庫県立粒子線医療センター運営懇話会 議事録

令和8年3月17日（火）15:10～16:00

兵庫県立粒子線医療センター2階会議室

- 1 出席委員 佐野委員、山本委員、福本委員、林委員、福田委員
徳永委員（代）

〔センター側出席者〕 沖本院長、徳丸副院長、天羽事務部長、林看護部長、
矢能放射線技術部長、井口総務課長

2 概要

- (1) 開会 14:05

- (2) 院長挨拶 14:05

当センターは令和9年度末までに閉院の方針を示されているが、治療については閉院まで引き続き尽力していく。本日は皆様からの忌憚ないご意見を頂戴し、今後の病院運営に生かしていきたいと考えているのでよろしくお願ひします。

- (3) 座長選出 14:07

昨年度選出の佐野委員を指名

(4) 議事

- ①運営状況報告 14:19

- ②意見交換 14:30

(委員) 令和9年度末までに閉院するというのは確定しているのか。

(院長) 兵庫県立粒子線医療センターとしては終わる。その後の取扱については、病院局がサウンディング調査を行い、民間での利用をヒアリングしているところである。

(委員) 現時点では粒子線施設が全国に26施設あるということだが、公営と民間のどちらが多いのか。

(院長) 公営13施設、民間13施設である。

(委員) 近年は民間が増えているようだが、黒字だから増えているのか。

(院長) 民間も一部を除いてほぼ赤字経営になっている。我々は保険適用にさせていただくよう要望をしていたが、保険適用になったものは治療費を安く設定された。今の状況では経営が難しい。

(委員) このままでは全て潰れる可能性があるということか。

(院長) そのとおりである。

(委員) この病院は2種類の治療ができるのに、近隣にできた施設に患者が

流れるのはアピールが少ないからではないのか。

(院長) アピールはこれ以上ないほどやってきた。

アピール度というよりやはり交通の便である。26施設ある中で、この施設が沢山患者数が来ているかというとやっぱり交通の便が良いところである。

また、2種類の粒子線ができるから特化している訳ではない。両方を比べるとどちらの方がいいというはあるが、その内容としては両方とも合格点を満たす治療になっていることがほとんどである。

(委員) 昨年度、年間660件ほどで黒字になるとの説明であったが、そのくらいが必要か。

(院長) 治療装置の保守委託費だけで年間6億円が必要である。また現状では近い将来に大規模改修をし、機械を入れ替えなければいけない。今の段階で300億円ほど必要になってくる。その借金を20年から25年で返そうとすれば、660人では無理である。

前立腺がんの治療費は以前2,883,000円であったが、保険適用となった今は1,600,000円である。同じ治療をしても収入も下がっている。

(委員) 手術ができない高齢の患者をこちらの病院に紹介し、治療してもらった。設立当初は全国から患者が集まってきたと思う。しかし全国にこれだけ粒子線治療施設が増えてくると地元の方々もこの病院の有り難みが薄くなってきたのかなと感じる。

現在、IMRTなどの治療も出てきたが、粒子線治療は将来的に残るのか。

(院長) これまで粒子線治療を行って培ったノウハウを残すべきと考える。粒子線治療装置も小型化してきたので、町中でも建設することが出来るようになってきている。集約化して数を減らし残していくことになると思う。

(5) 閉会・院長あいさつ 14:55

この病院が閉院になって本当に困るのは患者である。我々は当然最後の最後まで全力で治療をやっていく。

閉院後には、患者を神戸陽子線センターや近隣の粒子線治療施設に受けていただくことになると思うが、この施設のように即入院が出来すぐに治療開始できるようなところはない。今後県民の皆さまがこのような施設が県内に必要との声を上げていただけたら、このノウハウを引き継げるチャンスが出てくるかも知れないと思っているのでよろしく申し上げます。